

## (14) 福島県郡山の蛍鉦山跡(追記)

蛍鉦山の既報は、参考文献(1)、(2)を手引きにした、探査報告であった。鍋沢の探査も行ったが、コンクリート遺蹟だけを見つけたことを報告をしていた。今回、更に南に位置する大沢の探査を行い、坑口跡およびズリを見つけることができた。参考文献(2)の内容を確認した。参考文献(2)によれば、蛍鉦山の鉦脈は南北に伸びており、坑口は、幽沢だけではなく、鍋沢だけではなく、大沢の北面の3カ所あった。既報の探査報告での坑口は幽沢の坑口であった。そして、大沢の坑口跡をもつけることができた。これらの探査結果から、鍋沢の鉦脈の位置の見当をつけることができた。地形図上で、幽沢の坑口跡と、大沢の坑口跡に直線を引き、鍋沢の北面あたりに見当をつけて、探査を行った。結果、鍋沢にも、坑口跡およびズリを見つけることができた。鍋沢のコンクリートの鉦山遺蹟から、だいぶ西寄りのところであった。

現地への経路は次の通りである。東北道を仁科氏の塩原ICで降りる。400号線に入り西行して行く。上三依で120号線に入り北上していく。352号線と出会ったら、左折し、尾瀬方面に向かっていく。たのせ地区あたりに行き着くと、木賊温泉への案内板がある。それに従って、左折する。西根川に沿った村道を南下していくと、小高林地区に行き着く。蛍鉦山の追探査として、大沢の探査を先に行い、その結果、鉦山跡を確認した。その結果を基に、後日、鍋沢の探査を行ったので、その順序で紹介をする。

図1の小高林の所で、村道から西側の大沢への林道へと入って行く。が、民家が点在しており、入り口が少し分かり難いかもしれない。この付近に近づいたら、車を降りて、足で確かめるのも良いであろう。道に入ると、直ぐに古びた橋を渡ることになる。橋を渡った先で駐車できる。

探査日 2013年4月、その他

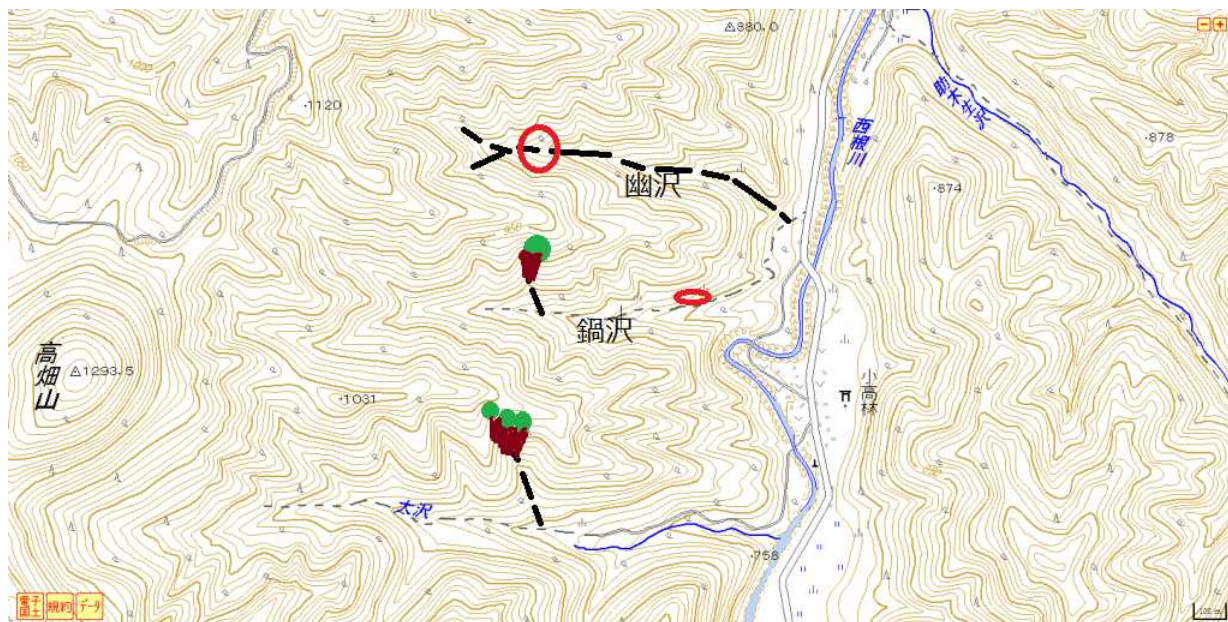


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。幽沢上流の赤丸は、既報の鉦山跡である。大沢の鉦山跡は、大沢沿いの林道に入ってから、最初の支流沢上流にあった。黒破線で経路を書き入れている。が、道らしい道はない。小さい沢を遡上する。途中から、沢には微小石英塊の転石が目立ってくる。黄緑丸が坑口跡、隣り合って3口あった。茶色ベタがズリである。鍋沢への入口の林道は、幽沢への入口ともなっている。主林道をそのまま進めば、鍋沢へと進むことになる。途中、コンクリートのホッパーが右手斜面に残っている。赤楕円の当たりである。更に進んだ先の、北向きの支流沢の上流に、坑口跡を1つ見つけた。山中では、どの小さい沢かわからなくなるであろう。以降に添付している写真を参考にすれば、それほど迷うことはないであろう。今回に限ったことではないが、登山者が利用する高度計付き時計を持参することを勧める。未知の所で、かつ道がはっきりしていない所をハイキングする場合には、非常に重宝な道具となる。数万円という値段なので決して安くはないが、回数を重ねれば、原価は十分に取れると思う。



# 鉾山跡写真

大沢



写真1 大沢沿いの林道を、小1時間歩くと、このあたりに行き着く。この先の右側斜面が、小さい支流沢となっている。北方向に伸びている。この支流沢を登る。特に道は無いが、容易に登っていける。途中から、微少水晶塊の転石が見られるようになる。



写真2 沢を登っていくと、右側斜面上部に岩が露出し、その下に坑口がある。坑口跡は少しずつ離れて、3カ所にあった。周り、および坑口の下斜面は、草木、土砂に覆われているが、ズリである。



写真3 ズリによく見られた微少水晶・針水晶塊。



## 鍋沢



写真4 鍋沢と幽沢への入口の林道は同じである。主林道は鍋沢に向かっている。それを登って行く。途中右側に、林道に接して、コンクリート遺蹟がある。形状からすると、鉱石ホッパーと思われるが、採鉱量が多かった鉱山であったことをうかがわせる施設である。



写真5 鍋沢に沿って、山道を更に進んで行くと、このあたりに行き着く。この写真画面の右側斜面に小さな支流沢がある。この沢を登る。大沢の場合と同じく、道らしいものはない。小さい沢を遡上する。



写真6 沢を登って行く。右上上部に坑口跡を見つけた。ズリはなさそうに見えたが、坑口の下の方で、大きな古木が根ごと倒れ、根元の斜面が大きく掘えぐられていた。そこにはズリが現れていた。写真7参照。



写真7 古木の開けた穴で、表面観察のみで見つけた、大きめの幾つかの微少水晶塊。

## 採集鉱物写真

なし。幽沢以上のものなし。

## 参考文献

- (1)「鉱物観察ガイド」、松原 聡 編著、東海大学出版、2008年。
- (2)「福島鉱山誌山誌」、福島県、1964年。



## (14) 福島県郡山の蛭鉦山跡(追追記)

この5月に、11年ぶりに蛭鉦山の沢の坑口跡を訪れた。漸くGPSのガーミンで経路ログを得ることが出来た。なを、今回は栃木地学愛好会の恒例の観察会の一員として参加したものです。

現在では、本鉦山跡は現地域の方々が管理しており、入山料(大人2000円、小学生1000円)を支払って入山できます。図2中のP2の所の道路脇に「星きのご園」(福島県南会津郡南会津町小高林256、電話0241-78-2931)があり、ここの売店で入山券を購入できます。駐車場もあります。

今回得たガーミンによる経路ログによると、経路及び坑口跡は既報の追記中の図1とほぼ一致していることが分かりました。安心していきます。

星きのご園から直ぐに、西根川に架かっている橋(写真1)を渡り、林道に入っていきます。大沢の中流までは少し登り気味のところがありますが幅は広くほぼ平坦で、年配の方でも安心でしょう。図2中のA点から右側にある小さくて狭い沢に入っていきます、結構急です。標高差約100mを登り上がることになります。A点付近には、コンクリートの残骸や木々にマーキングがしてあるので、この小沢に入るのには難しくはないでしょう。この文献とガーミンを持っていれば確実です。

なを、最近、携帯電話に「GPS機能」が付いているのがあるようです。その携帯電話にガーミンのように人工衛星からの電波を受信する機能があるのか私は知りません。著者の手持ちの携帯電話は、市街地などでは確りとした測地をしているのは確認していますが、山中ではしばしば通信圏外となり、その機能は使えていません。携帯電話の種類によるのかも知れませんが、各自の手持ちの携帯電話の測地性能を前もって確認しておく必要があるでしょう。

事故がなく、楽しく、汗を流してトレッキングをしてください。いつか機会があれば、幽沢、鍋沢への経路ログもとりたいと思っています。

2024年7月記



図1 右端に位置しているP1にある道の駅「たじま」から現地までの経路ログが青色曲線で示されています。左端の赤枠が蛭鉦山の現地。現地の拡大図は次の図2を参照すること。352号線から西根川に入るには、看板「木賊温泉入口」の所で左折する。余談ながらこの漢字は「きぞく」ではなく「とくさ」と読みます。左折してから西根川沿いに南下していきます。舗装された立派な道路です。





図2 図1中の左の赤枠部分の拡大図。右の道路付近のP2が「星きのご園」。P2から西方に進んで来て、A点で右側の急峻な小沢を登っていく。B点付近の右側（沢の左岸の茶色ベタ部分）は崩れやすいズリとなっている。同行者多数の場合には落石に注意すること。B点の上方にはほぼ水平に数個の坑口跡がある。写真1, 2を参照。坑口に向かって前方の尾根を越えた向こう側にも坑口跡があるとか？ 著者は未確認である。大沢の北側に位置している鍋沢（既報の（追記）を参照すると良い）にはコンクリート製のホッパー跡などがあることは確認している。このようなことから推断が出来よう、大沢坑の鉱石は鍋沢側に搬出していただであろうと。

注記

(1) 皆さんに登山用ストックを持参することを勧めます。近年は軽くて丈夫で、長さを自在に変えられるストックがあります。下山時、膝を痛める方は少なくありませんね。年配の方だけではなく、両手にストックがあると、登るのにも非常に助かります。試しにやってみて下さい。万が一に熊に対抗できるかも（冗談ですが）。

(2) 標本を採集する場合には、良好と判断したものだけとし、それより下と判断したものは現地に、次の訪問者にわかるように置きましょう。同類の愛好者に対する簡単な思いやりです。



写真1 星きのご園から西に進むと、直ぐに橋があり、西根川を横断することになる。



写真2 経路の最上位にあった坑口の一つ。この辺り水平に幾つかの坑口がある。前掲の（追記）中の写真2の坑口である。



写真3 それらの内の1つの内部の様子。休息や雨宿りに使えそうである